



みはらのたぐい



三原で輝く若者たち

2

February
Vol.239

「野球をする父の姿がかっこよくて、僕もこんな選手になりたいと思いました」。物心ついた頃から父親とキャッチボールをしていた墓君は、中学で全国制覇の実績がある強豪クラブに入団。「練習のつらさよりも、仲間と野球ができる“楽しさ”の方が勝っているから野球を辞めたいと思ったことはない」と話します。両親からみると真面目で大人しい性格。けれど野球を始めてからは自分の殻を破り、声を張りながら練習に励むようになりました。

高校でも野球を続け、親子で夢みる舞台への挑戦は続きます。



私が大切にしている
“言葉”



失敗から学ぶこともあり仲間と一緒に乗り越えられるから、挑む気持ちを大切にしている。

全国大会準優勝
(2024グランドチャンピオン大会)

三原市立第二中学校3年
府中広島'2000ヤング所属
だいとうま
墓 桐栄君

社会人になっても野球に携わっていた父の影響で小2からソフトボールを始めた。好きな音楽はヒップホップ。



令和6年に、クラブは
全国大会準優勝。両親
や祖父母などの応援が
励みになっている。

